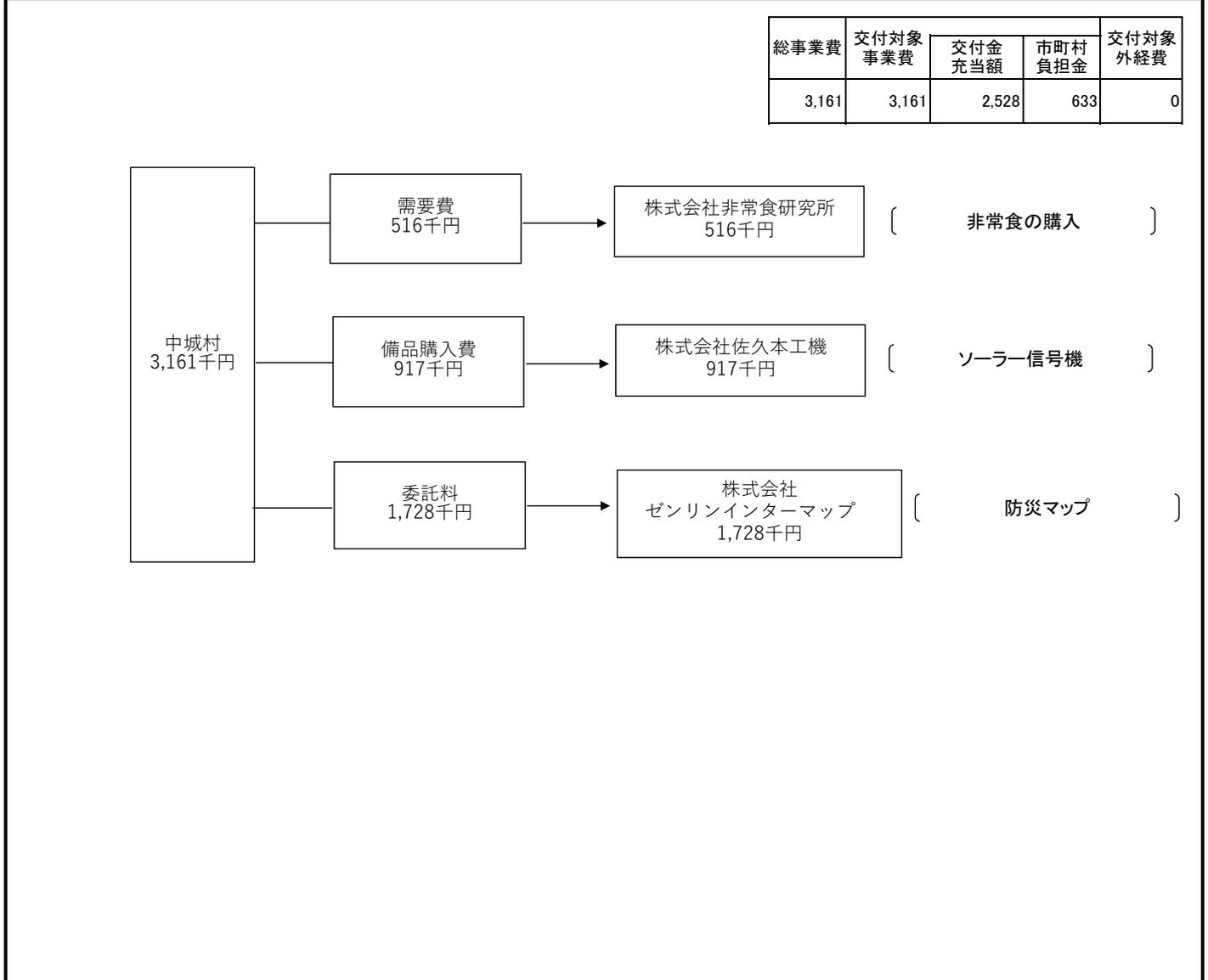


市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	防災体制整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成26~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)		
事業内容	災害に強く、安心して暮らせる村づくりを推進するため、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に、物資の搬送が開始されるまでの非常食の備蓄整備を行う。また、災害時に迅速な対応ができるよう災害対策の備品整備等の拡充や防災マップ機能強化を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	(a) 当初予算額	1,904	7,136	6,976	700	3,579	
	(b) 予算現額	1,038	9,944	6,976	700	3,579	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 866	2,808	0	0	0	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	1,038	9,944	6,976	700	3,579	
	B. 執行済額	1,038	9,315	5,133	700	3,161	
	うち交付金充当額	830	7,452	4,106	559	2,528	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	93.7%	73.6%	100.0%	88.3%	
予算の状況の説明	不用額418千円については、委託及び備品購入契約の指名競争入札による契約残等によるものであり、事業については当初計画通りに行われ、予算は適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	・非常食 1,250食	目標	(1,500食)	(1,500食)	(1,750食)	(1,250食)	
		実績	1,500食	1,500食	1,750食	1,250食	
	・ソーラー信号機の整備	目標	(実施)	(実施)	()	(実施)	
		実績	実施	実施		実施	
・防災マップ機能強化	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	当初の活動目標どおり、備蓄食料や災害対策備品の備蓄及び防災マップ機能強化を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(H27年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)	
	・非常食 整備率100% (H30年度整備数 9,000食/全体計画 9,000食)	目標	(52.6%)	(70%)	(84.60%)	(100%)	()
		実績		70%	84.60%	100%	
	・ソーラー信号機の整備完了	目標	(20%)	(40%)	(60%)	(整備完了)	(100%)
		実績		40%	60%	整備完了	
・防災マップの更新完了	目標	()	()	()	(更新完了)	()	
	実績				更新完了		
進捗状況説明	非常食の整備を目標通りの整備率が達成でき、避難生活となった場合の災害対応体制が強化されたほか、災害対策備品についても目標通りの整備率が達成でき、住民等の安心・安全の確保や、効率的・実働的な災害対応が可能となった。また、防災マップ機能強化を目標通りの整備率が達成できた。今後も計画的に整備を進めていく。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(非常食・災害対策備品・防災マップ機能強化) ・食料備蓄全体計画の整備を実施したが、今後消味期限が切れるものもでてくるため対策が必要である。 ・必要となる備品の整備を行ったが、今後避難訓練等でさらに必要なものを整理し、備品の拡充を行う必要がある。 ・今回防災マップの更新を行ったが、今後は防災マップを使用し防災に関する意識の高揚を図る。	(非常食・災害対策備品・防災マップ機能強化) ・村独自で非常食の購入を計画的に実施し、更新を行っていく。 ・安心・安全な生活確保のための生活物資や効率的・実働的な災害対応を行えるよう避難訓練等で明らかになった必要な備品について計画的に備品の拡充を行う。 ・災害に対して十分な準備を講じることができるよう避難訓練時に防災マップを活用した講習会を開くなど防災に関する意識の高揚を図る。

今後の取り組み方針	
(非常食・災害対策備品・防災マップ機能強化) ・非常食に関しては、村独自で非常食の購入を計画的に実施し、災害時必要数を確保していく。また、賞味期限が近い非常食に関しては、防災訓練等で非常食体験を実施する。 ・整備計画に沿った必要な備品の拡充を行う。 ・風水害及び地震(津波)災害対策の情報を理解し、住民参加による実践的な訓練を行う。本村において想定すべき災害に対する避難体制の強化に取り組む。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標も達成しているため、予算規模は適切であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村									
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-②	防災拠点及び地域交流施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ						
担当部署名	企画課・都市建設課		事業実施(予定)年度	平成28年度～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)					
事業内容	防災訓練や地域交流を通して災害への対応力を高めるため、防災拠点及び地域交流施設を整備する。										
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(H31年度)										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
		(a) 当初予算額					3,000		10,491		65,000
	(b) 予算現額					2,312		9,710		60,266	
	(c) 増減額(b-a)					▲ 688		▲ 781		▲ 4,734	
	(d) 繰越額										
	A. 計(b+d)					2,312		9,710		60,266	
	B. 執行済額					2,311		9,710		60,265	
	うち交付金充当額					1,848		7,767		48,212	
	次年度繰越額										
	執行率(%) (B/A)						100.0%		100.0%		100.0%
予算の状況の説明	不用額4,735千円については磁気探査業務委託1件、工事監理業務委託1件、工事請負契約1件の指名競争入札による契約残等によるものであり、事業については当初の計画どおり行われ、予算は適正に執行した。										
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況									
		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度			
	防災拠点施設の建築工事の実施	目標	()	(基本設計)	(実施設計)	(建築工事)					
		実績		基本設計	実施設計	建築工事					
		目標	()	()	()	()					
		実績									
達成状況説明	当初予定どおり、災害への対応力を高めるため、建築工事を実施した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)		H28年度		H29年度		H30年度		目標値(H31年度)	
		目標	()	(基本設計完了)	(実施設計完了)	(工事完了)	()				
	実績		基本設計完了	実施設計完了	工事完了						
	【H31成果目標】 整備した防災拠点施設を活用した避難訓練(2回以上/年)を実施 夏祭りや敬老会等、地域交流イベントの参加者数 350人	目標	()	()	()	()	(2回/350人)				
		実績									
	進捗状況説明	・当初予定どおり防災拠点及び地域交流施設工事が完了し、成果目標が達成された。 ・本事業の目的である、防災訓練や地域交流を通して災害への対応力を高めるために、必要な環境が整備された。									

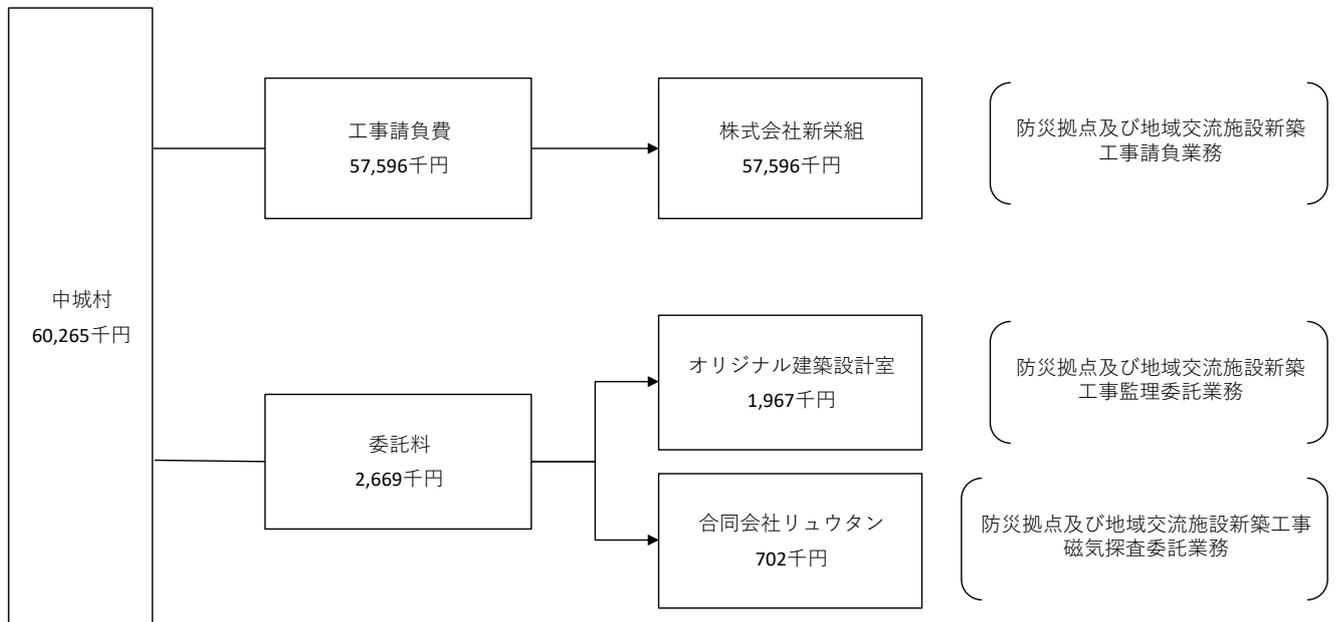
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本施設は、災害時における迅速な対応が行えるよう、防災訓練を行うとともに、地域交流を促進しながら地域一体となった防災への意識を高めるための防災施設であることから、計画的かつ整備目的に沿った利活用を実施する必要がある。</p>	<p>・地域の各種行事及び防災訓練を毎年実施することで地域の防災意識高揚を図り、村は地域コミュニティと連携を取ることで、活動内容の報告を受け、適宜指導等を行い、整備目的達成に沿った活用を実施する。</p>

今後の取り組み方針

・施設を活用し防災訓練のみならず、地域の各種行事を積極的に行い地域交流を深めることで、近所の近況を知り、避難に支援を要する人がどの家庭に居るか等を把握し、災害時に取る避難行動の確認をする等、地域活性化及び災害時にも迅速に対応できる地域づくりに取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
60,265	60,265	48,212	12,053	0



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・工事、委託業者共に指名競争入札を行い選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	・不用額については入札残等の結果であり当初計画していた事業内容はすべて実施できた状況を鑑みて妥当であると考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	観光客誘客促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	世界遺産「中城城跡」を生かした観光イベントを実施し、イベントを通して地域の伝統芸能の継承及び観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		16,438	23,622	33,160	15,000	15,000
			16,438	22,132	42,098	12,468	15,000
			0	▲ 1,490	8,938	▲ 2,532	0
			-	-	-	-	-
			16,438	22,132	42,098	12,468	15,000
	B. 執行済額		10,529	22,044	40,491	12,468	13,790
	うち交付金充当額		8,423	17,634	32,392	9,974	11,032
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		64.1%	99.6%	96.2%	100.0%	91.9%
予算の状況の説明		不用額は実績によるものであり、適切に事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	観光振興イベントの開催	目標	(実施)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	実施	開催	開催	開催	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	世界遺産を活かした観光イベントを目標どおり実施することができ(11/10、11の2日間)、観光客の誘客促進に繋がった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(24年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	イベント来場者数	目標	(5,352人)	(12,000人)	(10,000人)	(11,000人)	(9300人)
		実績		3,665人	10,140人	8,421人	
	伝統芸能団体出演者数	目標	()	()	()	(31人)	(37人)
実績					37人		
進捗状況説明	世界遺産を活かした観光イベントにおいて伝統芸能や歴史文化の継承促進に繋がるステージイベントを実施することが出来た。目標としていた来場者数を達成することはできなかったが、伝統芸能団体出演者数については目標を上回る人数が出演できた。						

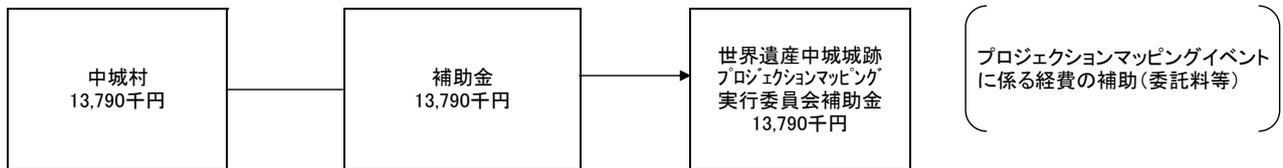
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(来場者数) イベント開催の情報発信方法として、機内でのPR映像の放映や機内誌への掲載等を行ったが、成果目標を下回る人数となった。	(来場者数) 県外からの来場者数が伸び悩んでいるため、企業との連携を推進し、更なる誘客へ繋げる必要がある。

今後の取り組み方針

(来場者数)
これまでも企業と連携し、飛行機内でのPR映像の放映や機内誌への掲載等を行ってきたが、更なる誘客促進のためホテルや旅行社等の企業との連携を推進し、より多くの観光客の目に触れる広報活動を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,790	13,790	11,032	2,758	0



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先には観光振興に資するまつりを開催する団体を選定しており、支出先として妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額が発生したものの、計画していた事業内容は実施され、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みても、予算規模は適正であったと考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定・精算時において支出等に関する書類により事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	プロサッカーキャンプ支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	プロサッカーチームの冬季キャンプ誘致・支援活動を行うことで、キャンプ期間中の観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,705	1,902	1,920	2,622	1,484
		(b) 予算現額	1,951	1,772	1,261	947	1,334
		(c) 増減額(b-a)	246	▲130	▲659	▲1,675	▲150
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,951	1,772	1,261	947	1,334
	B. 執行済額		1,888	1,481	1,201	947	1,334
	うち交付金充当額		1,510	1,184	960	757	1,067
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.8%	83.6%	95.2%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		適切に事業を執行できた。 なお、当初予算と予算現額の差額150千円については、旅費及び需用費の執行残を減額したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	プロサッカーチームの誘致活動の実施	目標	(2回/年)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	2回/年	実施	実施	実施	
	キャンプの支援事業実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・本村のサッカーキャンプに関する受入体制のPRやキャンプ期間中の支援など、プロサッカーキャンプの誘致活動を実施した。 ・1~2月のキャンプ期間中は、支援事業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	キャンプ見学者数	目標	()	(8,000人)	(8,000人)	(8,000人)	()
		実績		7,577人	9,319人	6,844人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	見学者数は目標の8,000人を下回る結果となったが、1日あたり約1,000人の見学者を数えた日が昨年よりも増えた。					

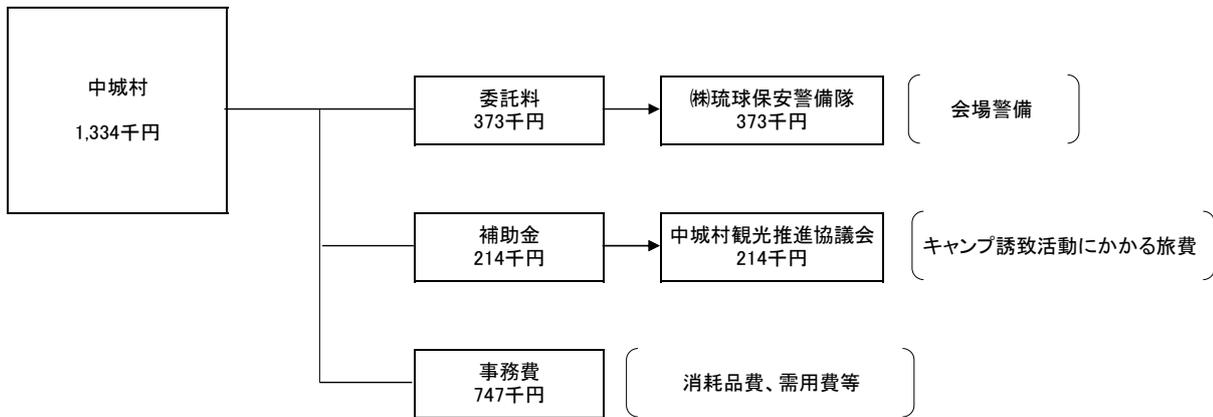
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度は昨年度と比べキャンプ期間が長かったにも関わらず、終日練習している日数が少なく、1日あたりの見学者数が伸び悩んだ。	「練習が見れなくても楽しめるキャンプ地中城村」の定着を図り「また来たい」と思わせる取り組みをすることで、練習がない時間帯でも見学者数(来村者数)を伸ばすことができると考える。

今後の取り組み方針

キャンプ期間中は選手の練習(キャンプ)時間に関わらず、グッズ販売や、選手のパネル展示、村内の飲食店を周遊するスタンプラリー等キャンプ以外のイベントを充実させることで、見学者数が増えるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

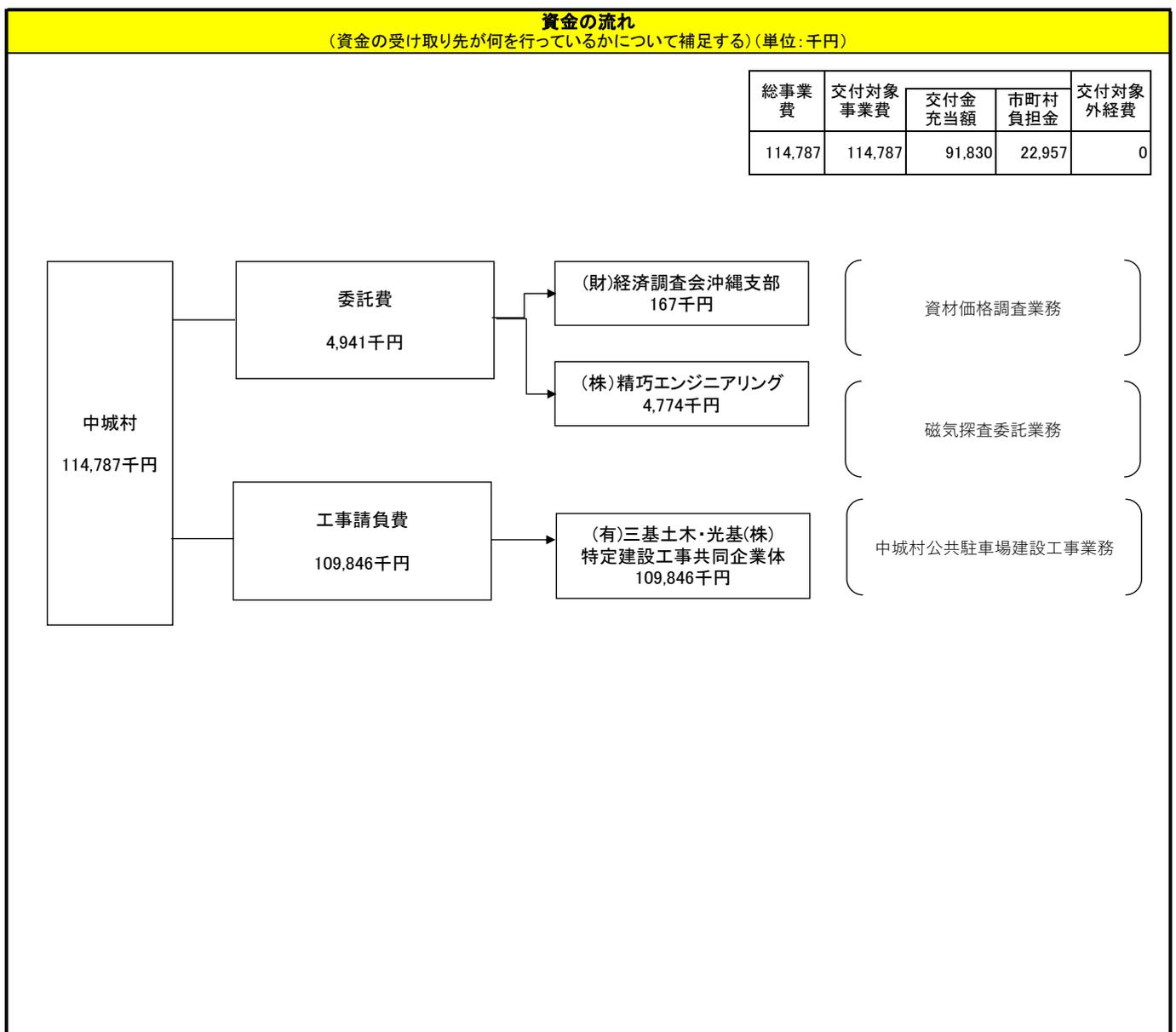
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,334	1,334	1,067	267	0



資金の流れ、費用・費目の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は見積比較を行い選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額については入札残等の結果であり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて妥当であると考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、必要なものに限定されていると判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	観光振興地盤強化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	世界文化遺産「中城城跡」や吉の浦公園で行うイベント等で、観光客の利便性を向上を図るため駐車場を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		4,000		123,688	
		(b)予算現額		266,174		114,983	
		(c)増減額(b-a)		262,174		▲ 8,705	
		(d)繰越額				0	
		A. 計(b+d)		266,174		114,983	
		B. 執行済額		264,410		114,787	
		うち交付金充当額		211,528		91,830	
		次年度繰越額				0	
		執行率(%) (B/A)		99.3%		99.8%	
予算の状況の説明	当初予算と最終予算との差額については、入札執行残8,284千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	磁気探査の実施工事の実施	目標	()	()	()	(磁気探査の実施工事の実施)	
		実績				磁気探査の実施工事の実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初予定どおり、資材価格調査、磁気探査実施、工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)	
		目標	()	()	()	(工事完了)	()
	公共駐車場整備工事完了	実績			工事完了		
	【参考指標】 利便性が確保されたか(80%以上)を含めて、当該駐車場の在り方について検討する。	目標	()	()	()	()	(80%)
		実績					
	進捗状況説明	順調に工事が進捗したことで、当初の予定通り整備工事を完了することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の利便性向上を図るため、利用者に対し駐車場について周知する必要がある。 中城城跡等で行われるイベント以外でも有効活用できるよう活用方法について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント実施機関と連携し駐車場が活用されるよう周知する。 駐車場近隣の公共施設で行われる各種イベントや行事等でも利用されるよう関係機関と調整する。
	今後の取り組み方針	
<p>・イベント開催時に観光客等の利便性が向上するよう駐車場について情報発信し、また吉の浦会館で行われる各種イベント・勉強会・講演会等でも駐車場が有効活用されるよう取り組む。</p>		



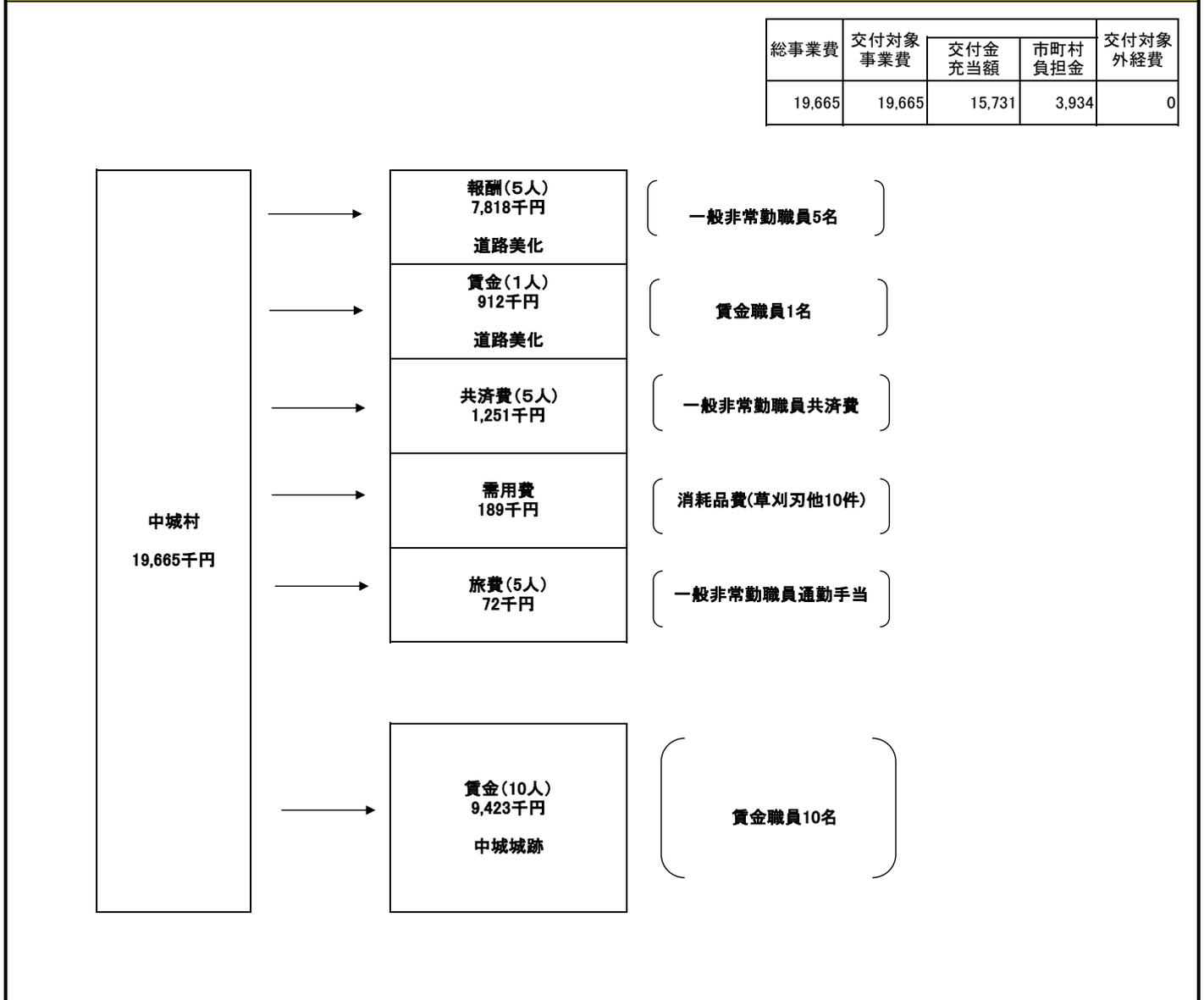
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託費の磁気探査は指名競争入札により選定しており、また、資材単価調査は地方自治法施行令第167条の2の規定に則り随意契約より実施しているため、適正であった。</p> <p>○予算規模については不用額は8,902千円であったが、適正な規模であったと考えている。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	観光地周辺環境美化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	都市建設課・産業振興課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光地及び観光地へのアクセス道路の美化清掃を行い、観光客の満足度向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,758	20,360			
		(b) 予算現額	13,772	19,665			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,986	▲ 695			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	13,772	19,665			
	B. 執行済額		13,772	19,665			
	うち交付金充当額		11,017	15,731			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		共済費の減額等により695千円の予算減が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H30年度	H31年度	H32年度	
	環境美化作業員の配置 6名	目標	(6名)	(6名)	()	()	
		実績	6名	6名			
	中城城跡環境向上作業員 10名	目標	()	(10名)	()	()	
		実績		10名			
達成状況説明	美化作業員6名、向上作業員10名の採用により、年度を通して美化活動を実施出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	・観光客の満足度向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		97%	93%		
	・中城城跡を訪れた方々へのアンケートを実施し、満足度向上(80%以上)を目指す。	目標	()	()	(80%)	()	()
		実績			82%		
	進捗状況説明	・観光客等の村内観光地利用者のため、観光地及び観光地周辺の美化清掃を実施し、適切に作業を行ったことで成果目標を上回る事ができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(満足度アンケート) ・健康増進や歴史を学ぶ歴史の道を利用した「ごさまるウォーク」の参加者やごさまる陸上競技場においてJリーグサッカーキャンプの観光客に対し、アンケートを実施した。通年を通して美化作業を実施し、草刈作業中に飛散防止ネットを張り歩行者安全対策を実施したことでアンケートにおける満足度が93%となっており、また以前に比べて快適に周遊できるようになったという意見もあったため、事業成果が出ていると考える。	(満足度アンケート) ・草刈り作業中は歩行者や走行中の自動車にも注意し、安全確認が必要であることから引き続き歩行者安全対策を実施し作業を行う。

今後の取り組み方針
(満足度アンケート) ・引き続き作業中は飛散防止ネットを設置し、歩行者や車両に注意を払い作業を実施することで観光地を快適に回れるよう環境維持を図り、観光振興に寄与していく。

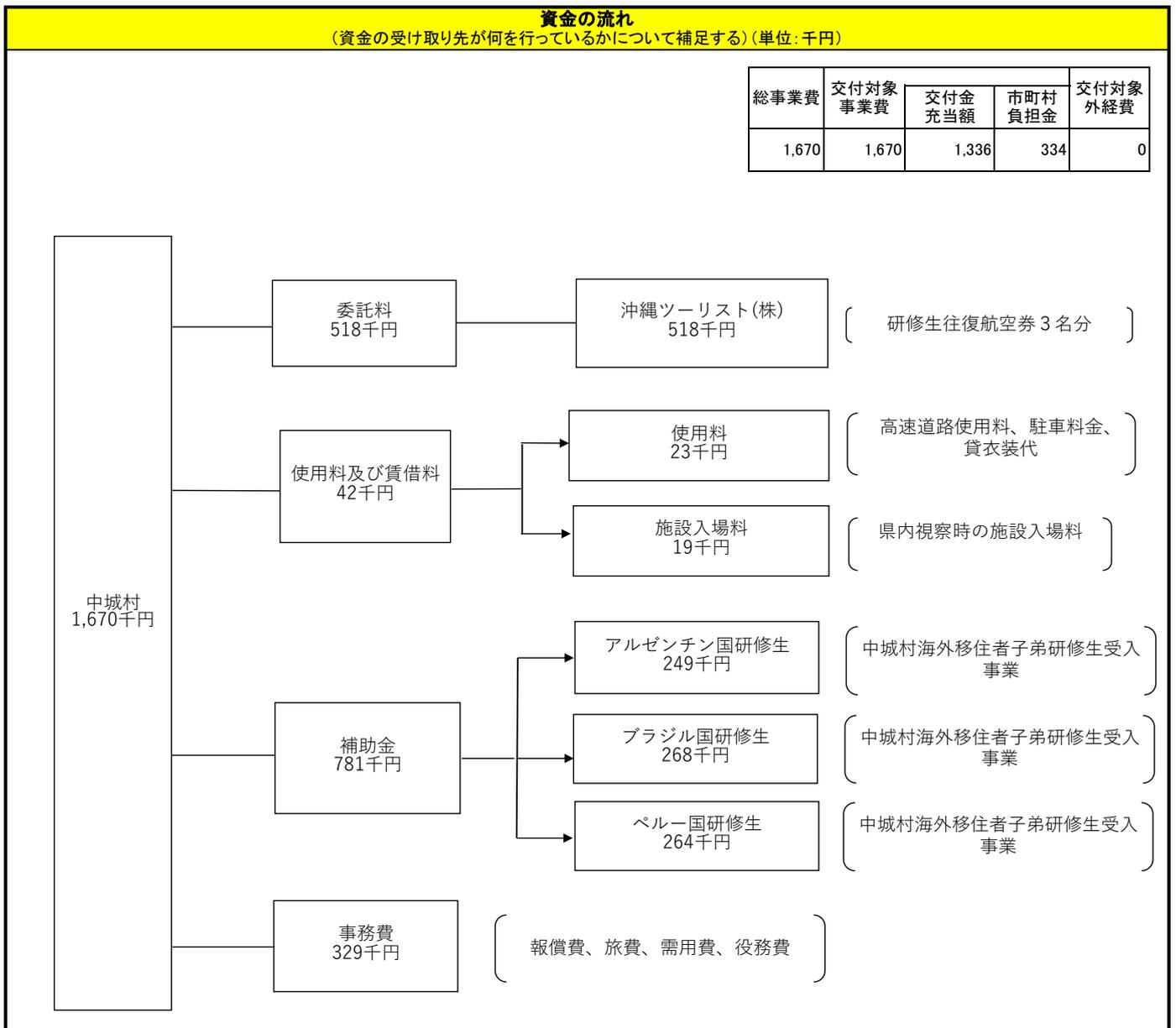
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
点検・費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○作業員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○成果目標も達成できていることから予算規模は適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、必要なものに限定されていると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	海外移住者子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア		
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
					Ⅲ-7		
事業内容	海外に移住した中城村出身者の子弟を研修生として受け入れ、沖縄の歴史や三線、琉球舞踊、エイサーなどの伝統文化を修得し、村民との交流を通して、社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、移住国との友好親善に資することを目的として実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,707	3,633	5,016	3,992	2,349
		(b) 予算現額	3,707	3,633	2,262	3,992	1,818
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 2,754	0	▲ 531
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		3,707	3,633	2,262	3,992	1,818
	B. 執行済額		3,197	3,346	2,103	3,243	1,670
	うち交付金充当額		2,557	2,676	1,682	2,594	1,336
	次年度繰越額				0		
	執行率(%) (B/A)		86.2%	92.1%	93.0%	81.2%	91.9%
予算の状況の説明		当初の予定(2ヶ月間)の研修期間が、1ヶ月半になったため委託料の予算減が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	海外移住者子弟研修生の受入実施	目標	(受入実施)	(受入実施)	(受入実施)	(受入実施)	
		実績	受入実施	受入実施	受入実施	受入実施	
	国際交流の機会の提供 移住の歴史について興味喚起	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
達成状況説明	当初目標どおり、中城村出身者の子弟を研修生として受入れ、国際交流の機会を提供し移住の歴史や海外のウチナー文化について興味を促すことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成30年度は3カ国から、それぞれ一人ずつ受入を実施し、異文化交流では、村内小学校で移住国の地理や文化を始め、海外移住者の歴史や海外のウチナー文化、村人会活動等を紹介し、生徒と交流することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(受入研修生) 適正のある研修生を受け入れるためには、選考期間について余裕のあるスケジュールを組まなければならないが、提出書類に不備によって予定外の時間を要した。	(受入研修生) 提出書類の前にメールで研修の説明を行うことから、早い段階で各国村人会に対し提出書類の内容について詳細説明を行い、速やかな書類提出を促す。
	(国際交流の場の提供) 村内保育所訪問や南米料理体験などで研修生が先生の立場になる等、様々な交流をとおり、村民・研修生ともに、国際交流について理解・関心を深めるきっかけとなった。	(国際交流の場の提供) より深く国際交流について理解・関心を高めるため、研修生と村民の交流プログラムを強化する。
今後の取り組み方針		
(受入研修生) 継続的に研修生を受け入れられるよう、各国村人会との調整を密にし、また連携を深め事業の周知を図る。		
(異文化交流会の開催) 村民との交流を強化するためのプログラムについて検討する。		



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は地方自治法施行令第167条の2第1項の1の規定に則り随意契約としており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、執行残が出たが、事業の目的は達成され、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○要綱の定めのある事業目的に即した費用を交付しており、要綱外の費用においては受益者負担のため、負担関係は妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、額の確定時において支出等に関する書類により、確認し、適正であることを確認した。

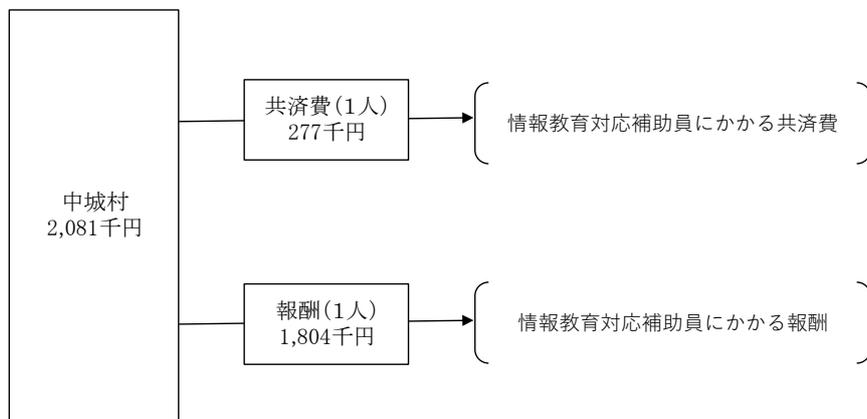
市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	ICT機器を使用したわかりやすい授業を実施することによる学校教育の質の確保及び教員のICT機器活用の習熟を図るため、小中学校に情報教育補助員を配置し、授業支援や環境整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	20,247	2,010	3,983	1,904	2,056
	(b) 予算現額	20,247	2,010	3,787	2,020	2,081	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	196	116	25	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	20,247	2,010	3,787	2,020	2,081	
	B. 執行済額	19,828	1,903	3,787	2,015	2,081	
	うち交付金充当額	15,862	1,522	3,028	1,611	1,644	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.9%	94.7%	100.0%	99.8%	100.0%	
予算の状況の説明	当初予算どおり、適切に事業を執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	・情報教育補助員 1人配置	目標	(小中学校 1人)	(小中学校 1人)	(小中学校1人)	(小中学校1人)	
		実績	小中学校 1人	小中学校1人	小中学校1人	小中学校1人	
	・年200時間の授業支援	目標	(200時間)	(200時間)	(200時間)	(200時間)	
実績		200時間	220時間	650時間	635時間		
達成状況説明	情報教育補助員を配置できた。授業支援時間についても、教員のICT機器活用の習熟を図ることにより、デジタル教材等を活用した授業へ取り組む教員が増加してきており、目標以上の年635時間を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				81%	
	教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合:80%以上	目標	()	()	()	(80%)	()
実績					83%		
進捗状況説明	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合81%、教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合83%となっており、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・情報教育補助員の配置により、授業におけるICT機器の活用及び、それに伴う教材作成に取り組む教員が増えたこと等により、ICT機器に対する習熟度のアンケートで83%の割合で習熟度が上がったとの回答があり、更なるデジタル教材等を活用した授業に取り組む教員数の増加及び、環境整備に向けた取り組みが必要となってきた。</p>	<p>・ICT機器を活用した授業を行うことにより、児童生徒の更なる基礎学力の向上を目指すためにも、ICT機器の整備を行い、継続的に情報教育補助員を配置し、研修会等を実施することで教員のICT機器に対する習熟度を高め、更なる教育環境の充実を図っていくことが必要である。</p>

今後の取り組み方針
<p>(ICT機器を活用した授業)</p> <p>・継続的な事業を実施するため、引き続き情報教育補助員を1名を配置し、児童生徒が日ごろからICT機器に触れる環境を作り、教員向けにICT機器に関する研修会等を開催し、ICT機器を活用したわかりやすい授業を推進することで、教育環境の充実を図る。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,081	2,081	1,644	437	0

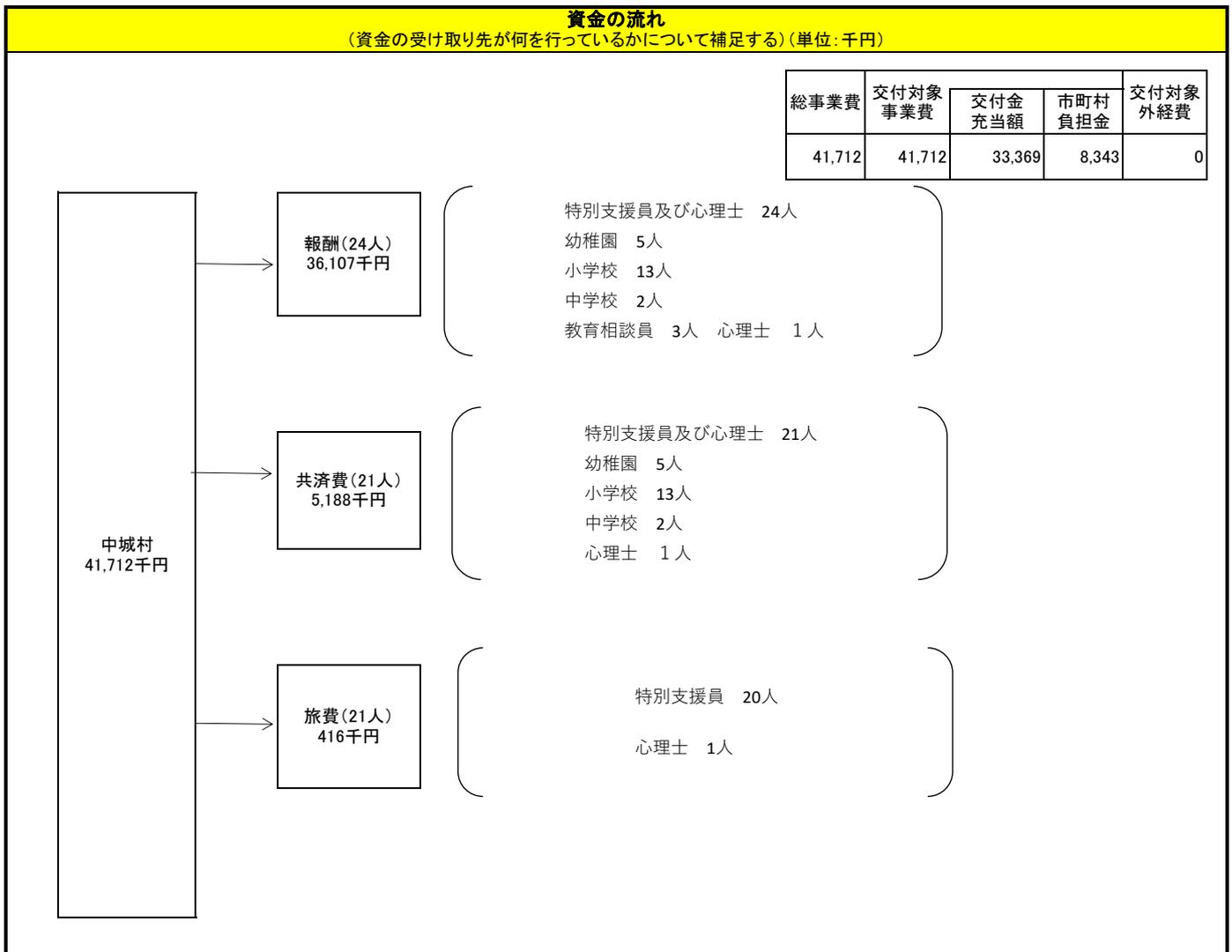


資金の流 れの点 検評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ ICT支援員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○ 成果目標もほぼ全て達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。</p> <p>○ 費目・用途については、目的達成に必要な人件費等に充てしめられている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	4-②	きめ細かな児童生徒支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じた支援を行うため、特別支援員を配置する。また、不登校や発達障害等の課題解決を図るため、教育相談員と心理相談員を配置する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,247	35,781	39,206	53,607	49,843	
		(b) 予算現額	20,247	35,781	34,333	44,986	41,835	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 4,873	▲ 8,621	▲ 8,008	
		(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)		20,247	35,781	34,333	44,986	41,835	
	B. 執行済額		19,828	32,098	34,108	44,986	41,712	
	うち交付金充当額		15,862	25,678	27,286	35,988	33,369	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		97.9%	89.7%	99.3%	100.0%	99.7%	
予算の状況の説明		適切に予算執行できたが、予定していた人員を確保することができなかったため減額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	・特別支援員配置 24人 小学校 14人 中学校 1人 幼稚園 5人	目標	(幼稚園:3人 小学校:9人 中学校:3人)	(幼稚園:4人 小学校:9人 中学校:3人)	(小学校:14人 中学校:4人 幼稚園:6人)	(小学校:12人 中学校:3人 幼稚園:6人)		
		実績	幼稚園:3人 小学校:9人 中学校:3人	幼稚園:4人 小学校:11人 中学校:3人	小学校:12人 中学校:3人 幼稚園:6人	小学校:13人 中学校:2人 幼稚園:5人		
	・相談員の配置 教育相談員 3人 心理相談員 1人	目標	(教育相談員:3人 心理相談員:1人)	(教育相談員:3人 心理相談員:1人)	(教育相談員:3人 心理相談員:1人)	(教育相談員:3人 心理相談員:1人)		
実績		教育相談員:3人 心理相談員:1人	教育相談員:3人 心理相談員:1人	教育相談員:3人 心理相談員:1人	教育相談員:3人 心理相談員:1人			
達成状況説明	・当初は21名の支援員を配置し、その後小学校に3名の支援員を増としたが人員が1名(合計22名)しか確保できなかった。人員が足りない状況ではあったが、各学校に支援員等を配置し授業中の支援や教育相談等を通して支援を要する児童生徒が安心して学校生活を送れるように支援を実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	特別支援員 保護者アンケート(満足度)	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	()	
		実績		86%	67%	92%		
	不登校児童生徒復帰率60%以上	目標	()	()	()	(60%)	()	
		実績				40%		
進捗状況説明	・保護者アンケートで92%の満足度を得られた。 ・不登校児童生徒復帰率については40%で目標を下回る結果となった。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(特別支援員アンケート)・92%の満足度を得られ、これまで、学校と家庭が連携して個に応じた支援を行ってきた成果となっている。</p> <p>(不登校児童生徒復帰率) 保護者アンケートにおいては成果目標を達成しているが、不登校児童生徒復帰率は不登校の改善に時間がかかり目標を下回っていることから、継続的にサポートしていく必要がある。</p>	<p>(特別支援員アンケート) ・今後も支援を要する園児、児童生徒はいるため、引き続き特別支援員を配置し、園児、児童生徒への支援が必要がある。対象児童が安心して学校生活を送れるためには、学校と保護者の連携が不可欠であるので、保護者と密に関わりながら支援を行う必要がある。</p> <p>(不登校児童生徒復帰率) ・発達的な課題を持つ児童生徒が増加傾向にあり、より組織的な対象児童生徒の早期発見と早期対応が求められる。 ・児童生徒に寄り添い、継続的に改善するようサポートし、また新規の不登校児童生徒を生まない学校体制が必要となり、不登校対策プログラムの確実な推進が求められる。</p>

今後の取り組み方針	
(特別支援員アンケート) ・今後も児童生徒への支援は必要である。保護者と学校が密に関わり、個に応じた支援を実施することで対象児童生徒が安心して学校生活を送れるような環境を作っていくよう取り組む。	(不登校児童生徒復帰率) ・不登校対策プログラムによる早期発見・早期対応による具体的な支援に取り組む。組織的な連携体制によるきめ細やかな支援を実施する。 ・相談員・心理師による教育相談及びカウンセリングをより計画的に実施することで、問題の早期解決に向け取り組む。 ・学校の教育支援会議などを通して、具体的な支援方法を検討することで、より組織的な支援に取り組む。

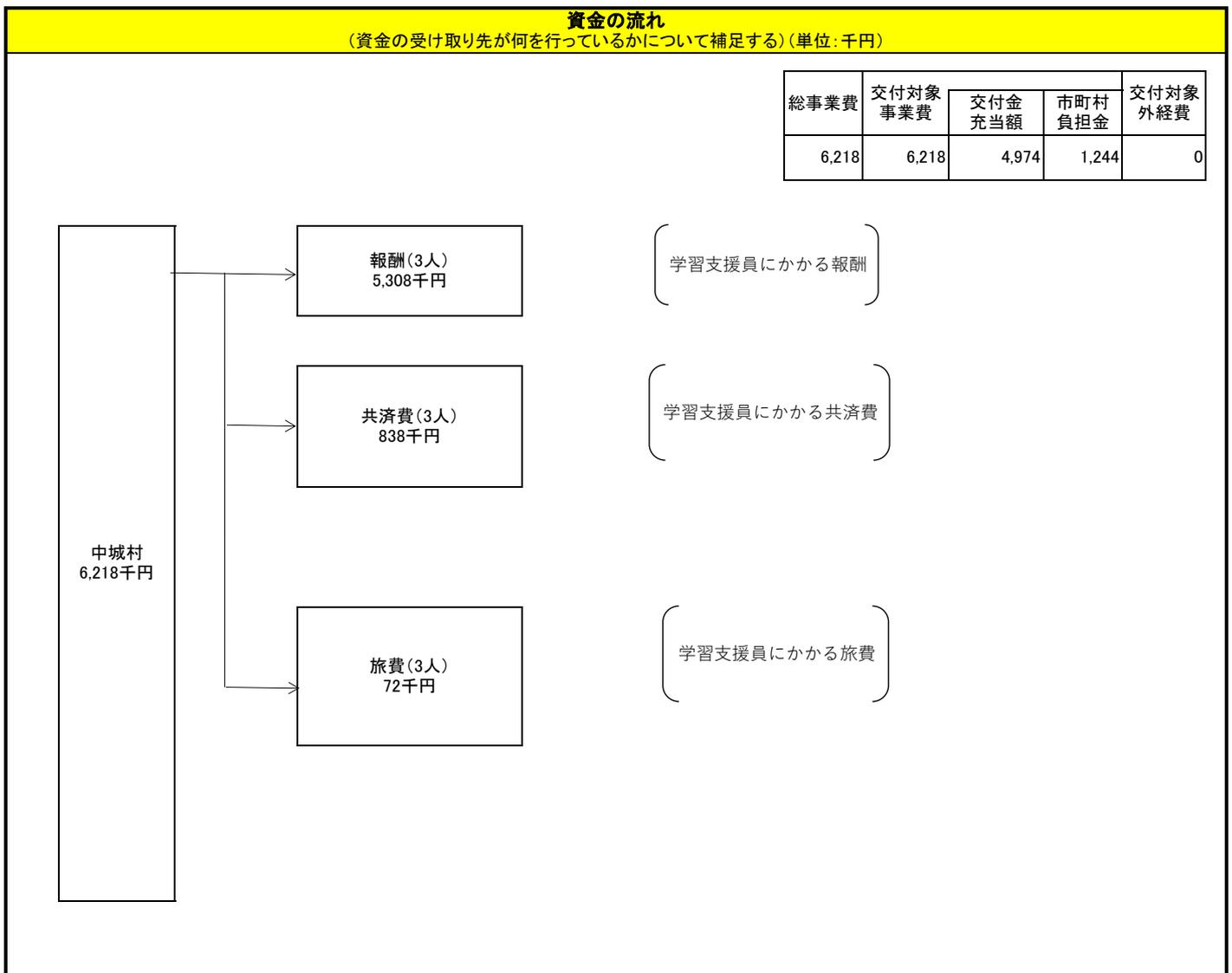


資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ 特別支援員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○ 費目・用途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。</p> <p>○ ホームページ、職業安定所等を利用して求人募集をしたが、予定している人数の採用ができなかった。人員の確保が今後の課題である。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	学力向上のための学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	村内中学校に学習支援員を配置し、数学を中心とした学習支援を実施することで、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)					17,793	6,225
						5,647	6,225
						▲ 12,146	0
						5,647	6,225
						5,647	6,218
					4,517	4,974	
					100.0%	99.9%	
	予算の状況の説明	当初予算どおり適切に予算執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	学習支援員配置 中学校3人	目標	()	()	(中学校3名)	(中学校3名)	
		実績			中学校3名	中学校3名	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・学習に課題を持つ生徒に対して支援を行う学習支援員3人を、目標通り配置できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差-4.5ポイント以上	目標	()	()	(差-4.5P以上)	(差-4.5P以上)	()
		実績			差-4P	差-10P	
	進捗状況説明	県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差は-10Pとなっており、成果目標を下回る結果となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 課題を抱える生徒への積極的な支援を通して、生徒自身の学習に対する態度は向上してきたが、県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差は-10Pとなっている。原因としては生徒各々が異なる課題を抱えていることから、個々に応じた課題分析が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業における全体指導と個に応じた指導の充実に向け、組織的な授業改善を行い、また授業課題と家庭学習の連動による個に合わせた学習支援を実施する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 学年課題や個に応じた支援計画の基、その課題(領域)と関連する教科の連携による横断的な授業改善を推進し、組織的な課題の解決に取り組む。 キャリア教育及び進路指導の充実を図ることで、生徒の学習の目的意識を高め、個々の生徒の学習意欲を育む。 外部の検定への受検の促しや補習講座の実施、及び生徒個々の状況に合わせた補習支援に取り組む。 定期的な教科会における生徒の状況や個々の支援方法の共有化を通して、家庭学習の推進を図り個に応じた支援体制を推進する。



資金の流 れ、費 目 ・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上支援員の採用については村の一般職非常勤職員の任用、勤務条件に関する条例に基づき雇用契約を行っている。 ○予定していた事業内容はすべて実施された他、不用額も発生していないことから、予算規模は適正であったと考える。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要な物なのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

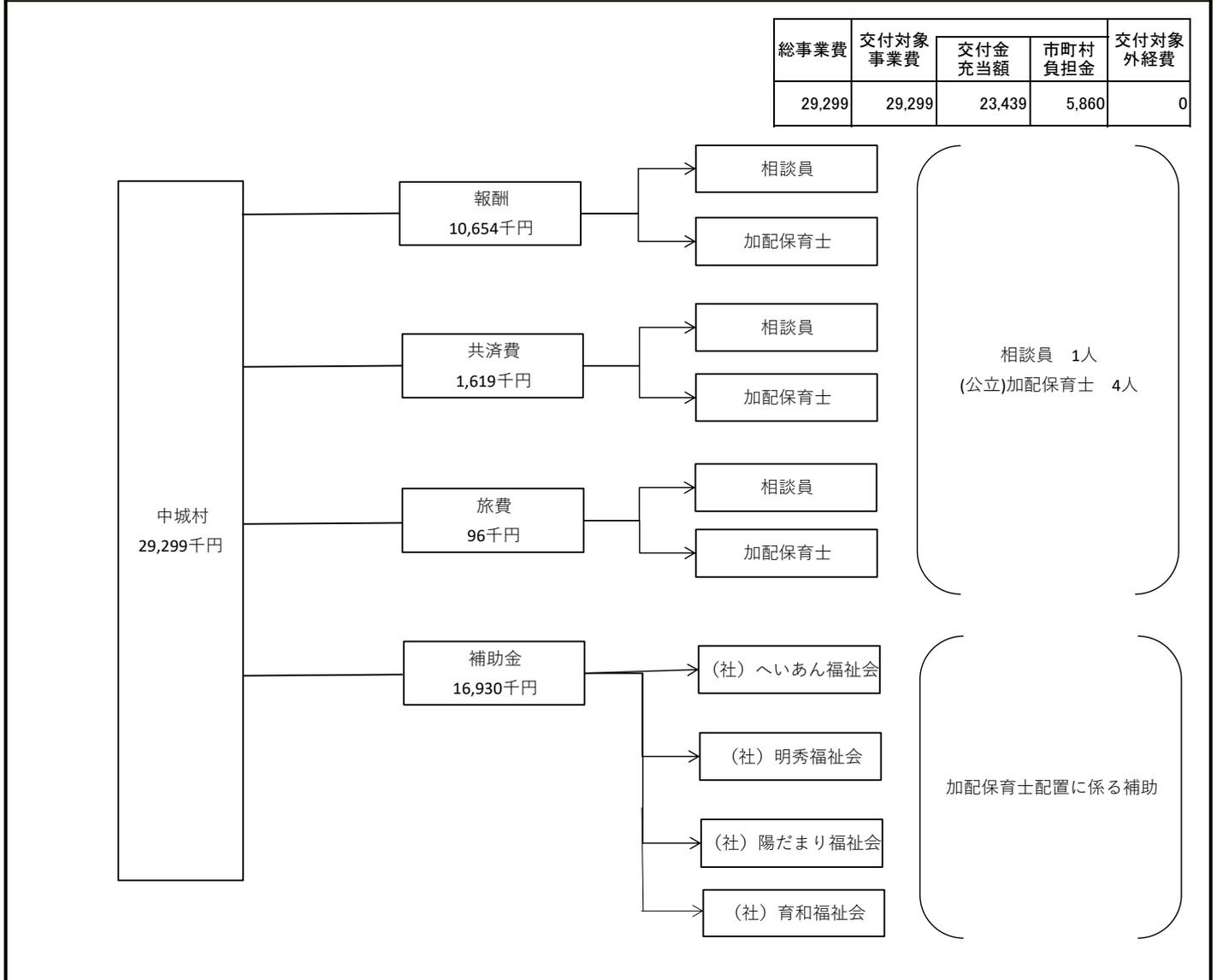
市町村名		中城村									
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4-④		子育て保育支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ					
	担当部課名	福祉課		事業実施(予定)年度	平成29~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実				
事業内容		①心身に障がいのある児童又は、発達に遅れのある特別な支援が必要な児童を保育所等で受入れるために、保育士加配に対する支援を行い、一般の児童と共に集団保育を行う体制を構築する。 ②支援が必要な児童へのきめ細かい対応を図るため、専門相談員を配置し、各保育施設等への巡回を行い、保護者や保育士への支援体制の強化を図る。					Ⅲ-3-(1)				
	効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
		(a)当初予算額							30,504		36,683
	(b)予算現額							29,001		29,299	
	(c)増減額(b-a)							▲1,503		▲7,384	
	(d)繰越額							-		-	
	A.計(b+d)							29,001		29,299	
	B.執行済額							29,001		29,299	
	うち交付金充当額							23,200		23,439	
	次年度繰越額							0		0	
	執行率(%) (B/A)							100.0%		100.0%	
予算の状況の説明	適切に事業を執行できた。 減額については当初予定していた心理相談員の確保や加配保育士を確保できなかったことによるものである。										
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況								
			H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		
	・加配職員数16人	目標					(加配職員数16人)		(加配職員数16人)		
		実績					加配職員数13人		加配職員数13人		
	・巡回指導対象保育施設件数 公立:1ヶ所 法人:10ヶ所 認可外:6ヶ所	目標					(公立:1ヶ所 法人:8ヶ所 認可外:8ヶ所)		(公立:1ヶ所 法人:10ヶ所 認可外:6ヶ所)		
実績						公立:1ヶ所 法人:8ヶ所 認可外:5ヶ所		公立:1ヶ所 法人:11ヶ所 認可外:3ヶ所			
達成状況説明	概ね当初計画の通り、各保育施設を巡回することができた。 認可外保育施設については、巡回指導対象児がない等の理由から巡回指導に至らず、17ヶ所中15ヶ所の巡回指導となった。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)		H29年度		H30年度		目標値(年度)		
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、加配保育士の対応への満足度80%以上	目標	()			(80%)		(80%)	()		
		実績				98%		96%			
	対象となる児童の保護者・保育士へのアンケートで、巡回指導の満足度 80%以上	目標	()			(80%)		(80%)	()		
		実績				92%		92%			
進捗状況説明	・対象児の保護者アンケートの結果、96%が「良かった」と回答しており、保育士を加配配置し手厚く支援することが効果的であった。 ・巡回指導対象児の保護者・保育士へのアンケートで、89%が満足したと回答しており、成果目標を上回る結果となった。 また、双方より、児童の成長や困り感を共有し、連携してみていくことが安心感につながったとの回答もみられた。										

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(保護者・保育士へのアンケート) ・巡回指導において、保護者・保育士より、目標を上回る結果を得ることができた。その要因として、両者の困り感を共有し、適切な助言や必要な支援を検討する場を持つことで、保護者の安心感や保育士の負担感軽減に繋がったためであると考えている。	・巡回指導を希望しない園があった。今後は、各保育施設に出向き、事業内容を再周知することや、乳幼児健診や心理相談の時に保護者に対しても巡回指導事業の周知を図り、きめ細かい対応ができるよう、支援体制を構築していく。

今後の取り組み方針

・引き続き、対象児童を受け入れるために、加配を行う施設への支援を継続して実施し、他の児童と共に集団保育を行っていく。また、発達の気になる子への対応方法の助言や指導を実施し、子どもたちの健やかな成長を支える体制を構築していく。また、巡回指導を希望しない園においても、支援が必要と思われる児童が在籍している可能性がある為、改めて各保育施設に事業内容を周知し、保育士・保護者と連携を図ることで児童の福祉向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助事業者は支援が必要な子を受け入れが可能な施設であるため、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・村の嘱託員設置規定に基づき、支援の必要な子に対し、必要な保育士及び相談員の配置であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・事業者負担もあり、事業内容から鑑みて妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

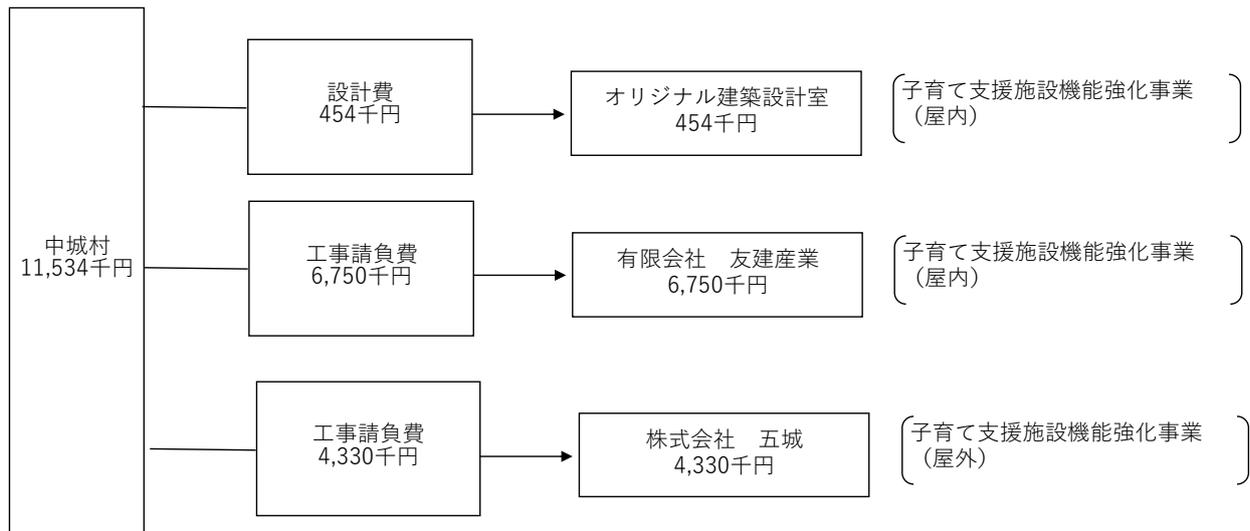
市町村名		中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑤	国際理解人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	沖縄振興の発展に重要な国際的感覚や視点を身に付ける人材育成のため、英語指導の補助員を配置し、学校の外国語活動及び国際理解教育を充実させる。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,116	4,116	4,116	4,140	4,140	
		(b) 予算現額	4,088	4,116	4,116	4,041	4,140	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 99	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	4,088	4,116	4,116	4,041	4,140	
	B. 執行済額		4,088	4,097	4,038	4,041	4,111	
	うち交付金充当額		3,270	3,277	3,230	3,232	3,289	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.5%	98.1%	100.0%	99.3%	
予算の状況の説明		29千円の減額が生じたが、事業については当初計画どおりに行われ、予算は適切に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	英語指導員配置 中学校 1人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)		
		実績	1人	1人	1人	1人		
	授業支援 中学校 490時間	目標	(490時間)	(490時間)	(490時間)	(490時間)		
		実績	490時間	501時間	490時間	490時間		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初目標どおり英語指導員を1名配置できた。 ・当初目標どおり490時間の授業支援を行った。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	【H30成果目標】 沖縄県学力到達度調査(英語)において、県と本村との平均正答率の差±0ポイント以上		目標	(±0)	(±0)	(±0)	(±0)	()
			実績		-3%	-3%	-7%	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県学力到達度調査(英語)において、県と本村との平均正答率の差は-7%となり成果目標を下回る結果となった。 						

市町村名							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑥	子育て支援施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-(ア)	
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育及び子育て支援環境づくり整備事業		
事業内容	児童に向けた各種放課後教室等や遊びの場を提供している、村内施設を安全に利用できるよう、機能強化整備を実施し、健全に成長できる環境を整える。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(H31年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(b)予算現額					13,000
		(c)増減額(b-a)					0
		(d)繰越額					-
		A.計(b+d)					13,000
	B.執行済額						11,534
	うち交付金充当額						9,227
	次年度繰越額						0
	執行率(%) (B/A)						88.7%
	予算の状況の説明		予算減額が生じたが、事業は当初計画どおり実施できた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	機能強化整備の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	子育て支援施設の機能強化を計画通りに執行できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(H31年度)	
		目標	()	()	()	(完了)	()
	機能強化整備の完了	実績				完了	
		目標	()	()	()	()	(0件)
	【H31成果目標】強化整備実施箇所における危険事例の発生件数	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	当初の予定どおり年度内に工事を完了した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>児童生徒が安全安心に活動できる環境を整備することが課題であったが、H30年度に機能強化が完了し環境整備が整ったことで、利用者からは、より安心して施設を利用できるようになったとの声もあった。今後は整備した施設の利用促進を図る周知を行う必要がある。</p>	<p>今回の機能強化により整備された環境を今後も維持しながら、多くの児童生徒に安心して利用できる居場所となるよう施設の村HP等を活用し周知等を行う。</p>
今後の取り組み方針		
<p>施設でのイベントをHP等で積極的に周知し、児童が利用しやすい環境づくりと共に健全育成の場を提供し子育て支援に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,534	11,534	9,227	2,307	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は入札残等の結果であり、予定していた事業内容はすべて実施されているため適正であるとする。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑦	ひとり親家庭学童利用支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度 平成30年度～	沖縄振興基本方針該当箇所	教育及び子育て支援環境づくり整備事業 Ⅲ-2-(2)-エ

事業内容
ひとり親家庭の学童利用に係る負担を軽減回り、ひとり親家庭でも安心して子育てができる環境を整備する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額					3,000
	(b) 予算現額					4,418
	(c) 増減額 (b-a)					1,418
	(d) 繰越額					0
	A. 計 (b+d)					4,418
	B. 執行済額					4,418
	うち交付金充当額					3,534
	次年度繰越額					0
執行率 (%) (B/A)						100.0%
予算の状況の説明		当初は3,000千円の予算を見込んでいたが、対象者数の大幅な増加があり、執行額が当初予算を大きく上回った。				

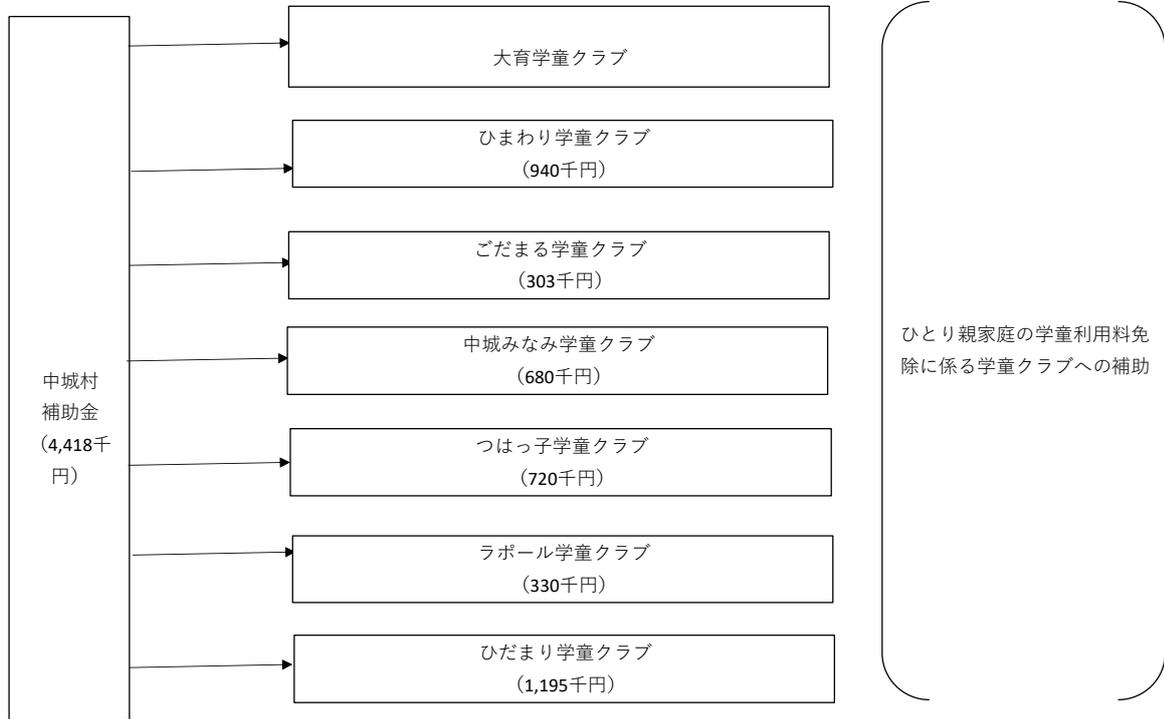
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
学童への支援の実施	目標	()	()	()	(実施)
	実績				実施
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	村内の7学童に対し、4,418千円の補助を行い、学童支援を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		安心・安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、ひとり親家庭の保護者へのアンケートにより本事業を検証する。	目標	()	()	()	(80%)
		実績				98%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	・アンケートを実施した結果、学童利用料の一部減免を行うことでひとり親家庭でも安心して子育てするために役立ったと回答が98%となり、成果目標を上回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>保護者による手続きは簡略化し、保護者が学童クラブの減免を利用しやすい環境をつくることが重要である。 また、年度途中で支援を必要とする家庭も出てくることから、スムーズに支援が受けられるよう、周知徹底が必要である。</p>	<p>周知活動を持続的にを行い、補助を行っている学童クラブと協力し、継続的かつ円滑に、事業を行っていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>継続的かつ円滑に事業を実施するため、学童クラブの連絡会にて4月入所一斉受付に向けて事業の周知・情報交換を行う。 またHPIにて周知を行うことで、補助必要者へ周知徹底を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	市町村負担金		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,418	4,418	3,534	884	0



資金の流 れ、 点 検 評 価 ・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規定している学童クラブであり、妥当だと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算と執行済額に開きがあるため、次年度の当初予算は考慮が必要である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各学童クラブに対する補助額は、学童利用料のおおよそ1/2であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているので妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、清算段階で目的に即しているか確認をし、必要であったと判断した。

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 文化財悉皆及び中城村沖縄戦・移民調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア		
	中城村教育委員会 生涯学習課		事業実施(予定)年度 平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所		
担当部署名	中城村教育委員会 生涯学習課		事業実施(予定)年度 平成25年度～令和3年度		III-3-(2)		
事業内容	村民の文化財保護意識の高揚と文化財の活用を図るため、村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置及び現況を把握することや、村内の沖縄戦に関する遺跡の所在・体験談を記録に残し、次世代に継承するため調査事業を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,414	10,160	16,231	22,796	33,540
		(b) 予算現額	7,278	10,160	16,231	21,140	33,540
		(c) 増減額(b-a)	864	0	0	▲1,656	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		7,278	10,160	16,231	21,140	33,540
	B. 執行済額		7,222	10,085	14,467	21,098	29,991
	うち交付金充当額		5,777	8,067	11,573	16,877	23,993
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.2%	99.3%	89.1%	99.8%	89.4%
予算の状況の説明		不用額3,540千円については、文化財パンフレットの印刷製本費の入札残と、年度途中の嘱託員1人の休職によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	【文化財悉皆調査】 各集落での聞き取り調査の実施	目標	(4字)	(3字)	(3字)	(2字)	
		実績	4字	3字	3字	2字	
	【文化財悉皆調査】 調査概報(各字パンフレット)の作成:2字	目標	(4字)	(3字)	(3字)	(2字)	
		実績	4字	3字	3字	2字	
	【中城村沖縄戦調査】 沖縄戦調査の実施	目標	(—)	(調査の実施)	(調査の実施)	(調査の実施)	
		実績	—	調査の実施	調査の実施	調査の実施	
	【移民調査】 移民調査の実施	目標	(—)	(—)	(—)	(調査の実施)	
		実績	—	—	—	調査の実施	
達成状況説明	(文化財悉皆調査) 登又・南上原の2カ字で戦前や戦後の中城の状況を中心に聞き取り調査を行い、これらの調査成果をまとめた文化財パンフレットシリーズNo.14「中城村戦前の集落 登又」600部、No.15「中城村戦前の集落 南上原」3,600部の合計4,200部を発刊した。 (沖縄戦調査) 村内における沖縄戦に関する聞き取り調査を実施できた。 (移民調査) 中城村に関する移民調査を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)
	悉皆調査率 沖縄戦の調査における記録	目標	()	(56% 50件)	(72% 75件)	(83% 100件)	()
		実績		56% 99件	72% 82件	83% 237件	
	移民に関する基礎調査	目標	()	()	()	(基礎調査の完了)	()
		実績				基礎調査の完了	
	【H31成果目標】 調査した内容を活用した企画展示会の来場者数:1,500人	目標	()	()	()	()	(1,500人)
		実績					-
進捗状況説明	・文化財悉皆調査に関しては、当初目標どおり83%(13カ字)分の調査が完了した。 ・沖縄戦調査に関しては、目標以上となる237件の記録を取る事ができた。 ・移民に関する基礎調査に関しては、当初目標どおり、調査を完了することができた。						

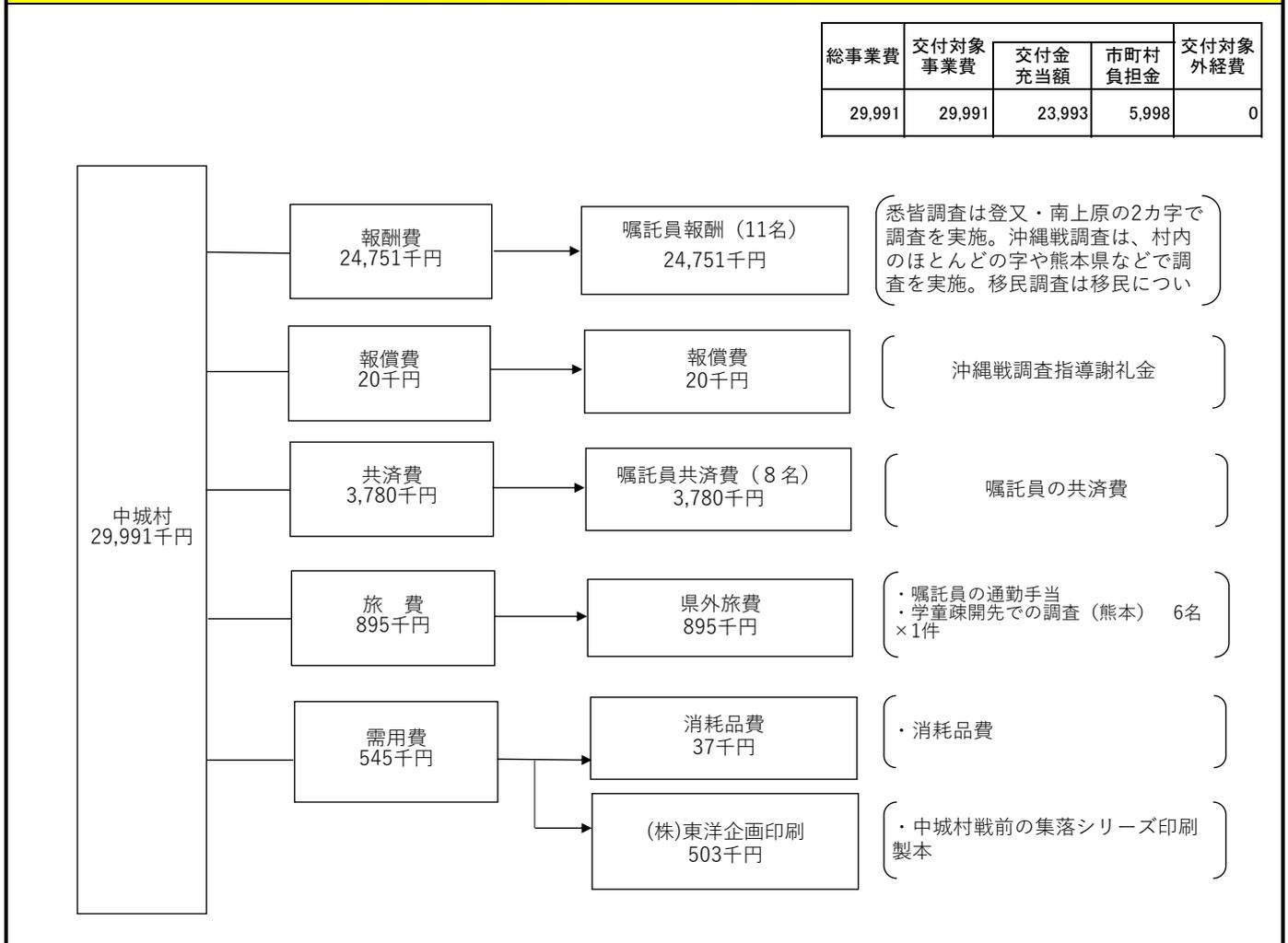
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(悉皆調査率、沖縄戦記録、移民基礎調査)</p> <p>事業の実施に当たっては、聞き取り対象者に優先順位をつけたうえで聞き取りを行っており、文化財悉皆調査、沖縄戦調査ともに目標を達成できた。特に沖縄戦調査では、聞き取りの調査員を増員したことで、熊本県における疎開調査で現地の70～80代の方々からも聞き取りを行えたことが目標を上回る結果に繋がった。</p> <p>しかし、聞き取り対象者となっている人達は年々高齢となり、対象者が減少していることから、聞き取りの効率化を図り、かつ継続的に行っていくことが課題である。</p> <p>移民調査では予定どおり中城村に関する移民の資料を揃えることができた。</p> <p>しかし、中城村内では移民先における村人の写真や渡航許可証などの資料を収集することが困難であった。</p>	<p>(悉皆調査率、沖縄戦記録、移民基礎調査)</p> <p>聞き取り対象者が高齢であることから、引き続き優先順位をつけて円滑に調査を行い、また、聞き取り調査の時期を年度の前半に行うことで、効率化を図り実施する。</p> <p>移民に関しては、移民先の中城村人会を通して、写真や渡航許可証などの現地資料の収集を図っていく。また、中城村の移民に関する歴史を村内外に周知してもらうため企画展やイベントを実施する。</p>

今後の取り組み方針

(悉皆調査率、沖縄戦記録、移民基礎調査)

- ・文化財悉皆調査及び中城村沖縄戦調査は引き続き、未調査の字のから地域の事に詳しい高齢者の方々のリストを提出してもらい、調査対象者の優先順位を決め、年次計画に盛り込む。
- ・文化財悉皆調査は、H31年度までに各字の調査及び文化財パンフレットの発刊を完了し、平成32・33年度で一般普及用や成果を総括した冊子等を発刊する。
- ・沖縄戦調査は、H31年度までに各字の調査を完了し、それと並行して沖縄戦マップの作成も行う。平成32・33年度は一般普及用や成果を総括した冊子等を発刊する。
- ・移民基礎調査で収集した資料は、毎年10月31日に開催される「世界ウチナンチュの日」に合わせて、護佐丸歴史資料図書館で行う移民展などで活用し、中城村の移民の歴史について情報発信していく。
- ・移民先における写真や渡航許可証などの資料収集については、今後も移民先の中城村人会を通して収集を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○印刷業者は指名競争入札で選定しており、妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の0.2%程度であり、その内容は消耗品費等の残りであり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	村内文化財整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり III-3-(2)		
事業内容	文化財愛護意識を高め文化財の継承を図るため、中城村指定有形民俗文化財「津覇のテラ」の環境整備を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(～R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					5,549
		(b)予算現額					5,549
		(c)増減額(b-a)					0
		(d)繰越額					0
		A.計(b+d)					5,549
	B.執行済額						5,379
	うち交付金充当額						4,302
	次年度繰越額						0
	執行率(%) (B/A)						96.9%
予算の状況の説明		当初の計画通り事業を実施した。 不用額170千円は入札の実績減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	「津覇のテラ」整備に係る環境整備工事、設計・監理委託、測量委託	目標	(-)	(-)	(-)	(整備実施)	
		実績	-	-	-	整備実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	中城村指定有形民俗文化財「津覇のテラ」の環境整備を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(30年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(H31年度)
	「津覇のテラ」整備に係る環境整備工事、設計・監理委託、測量委託	目標	(-)	(-)	(-)	(完了)	(-)
		実績	/	-	-	完了	/
	【H31成果目標】 津覇のテラを活用した学習会等の参加者数50人	目標	(-)	(-)	(-)	(-)	(50人)
		実績	/	-	-	-	
	進捗状況説明	中城村有形民俗文化財「津覇のテラ」が所在する場所への環境整備が完了した。文化財の見学しやすさが改善され、より文化財の周知や地域文化財に対する愛護意識を高め継承促進を図る環境が整備された。					

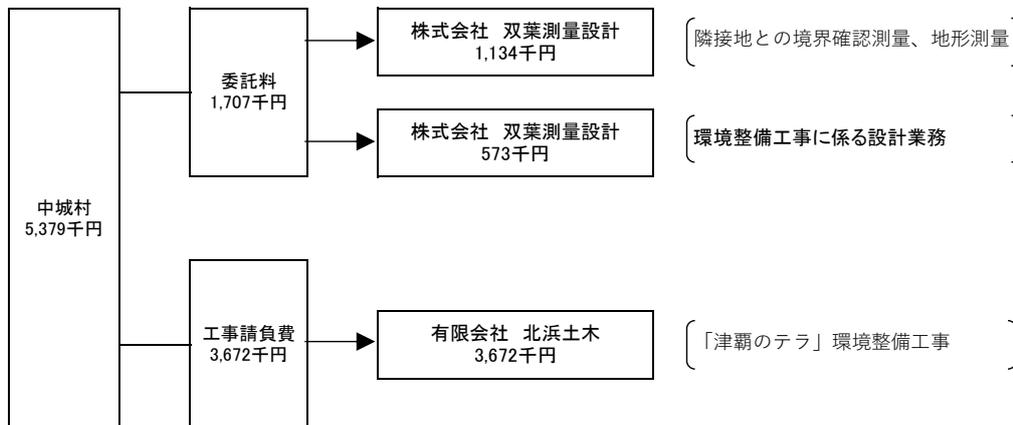
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(「津覇のテラ」整備に係る環境整備工事、設計・監理委託、測量委託) 文化財までの入口が狭く周知されていないという課題があったため、本事業において容易に見学しやすい環境とどのような文化財であるか理解できるように整備することにより問題解決に繋がった。 今後は対象文化財を活用した地域文化財巡り等を促進していく必要がある。	(「津覇のテラ」整備に係る環境整備工事、設計・監理委託、測量委託) 村内小中学校の地域文化財学習や、村民向けの文化財めぐり等を実施する。 また、観光パンフレット等に整備した文化財を記載して、村内外に情報発信を図る。

今後の取り組み方針

(「津覇のテラ」整備に係る環境整備工事、設計・監理委託、測量委託)
対象文化財において環境整備を実施したことで、村内外の人々が容易に見学できる環境が整ったため、今後は村内外の人々を対象に文化財巡りを実施し、対象文化財の周知を図り、文化財に対する理解と愛護精神を高めて継承を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,379	5,379	4,302	1,077	0



資金の流 れの点 検評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の約3%であり、適正で規模であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	中城村地域多世代交流活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成	
事業内容	伝統文化の振興及び継承促進を図るため、組踊の演舞及び継承等を行っている村内団体の活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)					3,500	3,000
						2,340	3,000
						▲ 1,160	0
						0	0
						2,381	3,000
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額					2,340	2,467
						1,872	1,973
						0	0
		執行率(%) (B/A)				98.3%	82.2%
	予算の状況の説明	当初の計画通り事業を実施した。 不用額は補助団体の実績減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	村内組踊団体への補助の実施	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)	
		実績	-	-	-	実施	
	(指標)	目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初の目標どおり、伝統文化の振興及び継承促進を図るため、補助を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(30年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	組踊出演者数	目標	(70人)	(-)	(-)	(70人)	()
		実績		-	-	95人	
	上演来場者数	目標	(500人)	(-)	(-)	(500人)	()
		実績		-	-	510人	
進捗状況説明	・組踊出演者数は、立方の配役や地謡の出演人数など組踊上演会全体の出演者は、目標を上回る95人となった。 ・上演来場者数は、昼夜2回公演で目標を上回る510名の来場があった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(組踊出演者数) 組踊などの伝統文化に今まで触れることのない児童生徒が、成人の稽古の様子を見ることで興味を持ち稽古に参加し、更に出演者の兄弟・友人が興味を持ち稽古に参加したことで人数が増えていき目標人数を達成した。課題としては、演者である子ども達への演技指導を行う指導者達が、仕事が終わった夜にしか稽古することができず、児童生徒の稽古時間が遅くなるので今後の後継者育成に支障をきたす可能性がある。 (上演来場者数) これまで児童生徒による地域の伝統芸能としてエイサーはあったが、組踊の上演は県内において事例がほとんどないことから、組踊上演の情報を聞いて興味を持った人たちが来場したことが目標人数を達成した要因と考えられるが、会場の座席数が255席と限られていた。昼夜2回公演で収容人数最大510名までのため観覧できない人もいた。	(組踊出演者数) 当面は、児童生徒への演技指導を土日の昼間も行うようにし、いずれは演技経験者の高校生から中学生へ、中学生から小学生へ、というような演技指導をおこなう体制作りを行うことで、地域の伝統芸能を継承していくための稽古時間設定や指導法の工夫が必要である。 (上演来場者数) 今後、上演回数、収容人数がもう少し大きい会場などでの上演検討も必要である。

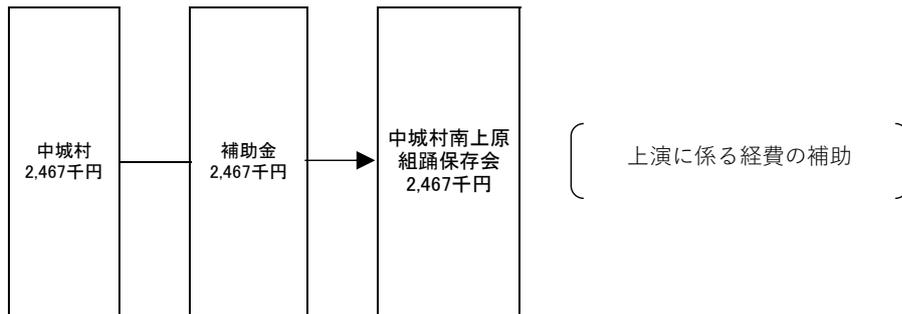
今後の取り組み方針

(組踊出演者数)
引き続き伝統文化の継承、上演継続が行えるよう周辺地域も含め継承していく人材を集めると同時に指導者の育成に取り組む。

(上演来場者数)
周辺地域を含め収容人数の多い会場での上演や日数を増やし、より多くの人が観覧できるような機会を増やす。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,467	2,467	1,973	494	0



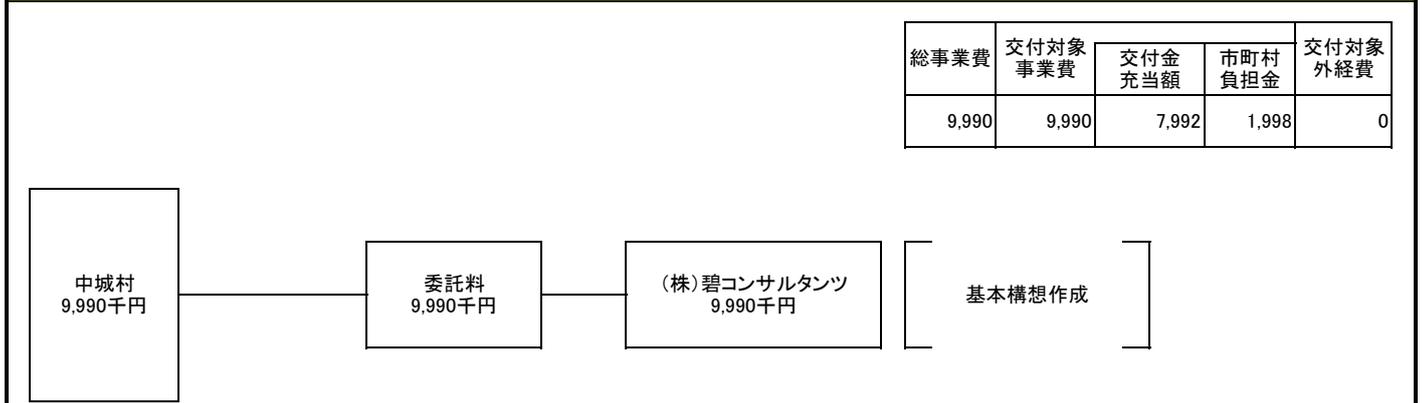
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は当該事業内容を実施している団体であったため妥当であったと考えている。 ○経費節減に努めた結果、不用額は事業費の約8%とあり、適正な規模であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	中城村農業振興ビジョン策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成30～令和元年	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を活かした産業活性化事業 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	年々就業者数や生産高が減少している中城村の農業を推進するため、村の特徴や魅力を活かした総合的かつ計画的な指針を示す農業振興ビジョンを整備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)						11,070
							9,990
							▲ 1,080
							9,990
	B. 執行済額 うち交付金充当額						9,990
							7,992
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)						100.0%
予算の状況の説明	当初予定していた品目別検討会の参加者に対する謝金が、各品目別の定例会において検討会を開催したことにより謝金の支払いが必要なくなったため1,080万円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	ビジョン策定に向けた調査の実施、現状分析及び重要課題の抽出	目標	()	()	()	(調査の実施)	
		実績				調査の完了	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	ビジョン策定の基礎となる中城村農業の現状における強みと弱みを把握するため農家にアンケートを実施した。また、野菜、花卉、果樹、家畜及びサトウキビの各農家及び農業委員会、JA、農業青年クラブ及び市場の各担当者にヒアリングを行った。アンケートとヒアリングの結果から強みと弱みを取りまとめ、役場関係部署によるワーキンググループ及び農業関係者で構成するビジョン策定委員会で検討会を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R2年度)
	基礎調査の完了	目標	()	()	()	(調査の実施)	()
		実績					調査の完了
	【R2成果目標】 本事業で策定する農業振興ビジョンで目標生産額を設定し、各種農業施策の展開につなげる。	目標	()	()	()	()	(農業施策の展開)
		実績					
進捗状況説明	年々就業者数や生産高が減少している中城村の農業を推進するため、村の特徴や魅力を活かした総合的かつ計画的な指針を示す農業振興ビジョンの基礎調査及び分析を行った。その結果、基本構想を取りまとめることができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(農業振興ビジョン基礎調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートやヒアリングの結果から、地理的・土壌の優位性や農家のコミュニティの強さから農業に関する情報交換と技術継承が行われ、歴史ある伝統的島野菜が現存するなど、本村の農業の特質を把握することができた。また、耕作放棄地の解消や人材不足、生産環境の脆弱さや作物ごとの課題が見えてきた。 	<p>(農業振興ビジョン基礎調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本村の強みである地理的及び土壌の優位性を活かし、葉物野菜、果菜、根菜及び果樹に加え、伝統的島野菜の中から市場や農家の意見を反映させた複合経営や輪作などを実施するために必要な施策や営農モデルを構築することが重要であると考えます。 そのため、特質の活用と強化に加え、弱みを改善する方法については、農家や農業関係機関の意見をさらに聞きとり、基本計画に反映させることが重要であると考えます。

今後の取り組み方針
<p>(農業振興ビジョンの策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策や営農モデルを構築するにあたり、市場が求める品目と農家の営農の実態を把握するため市場や農家にヒアリングを行い、実効性のある基本計画づくりに取り組む。また、JAや学識経験者、中小企業診断士にも意見を伺い、農業に関わるすべての人がそれぞれの役割を果たすことで農業が振興していくビジョンを策定する。 作成した基本構想を基に各施策を具体的に実施するための基本計画作成に向け、引き続き、農家及び農業関係者にヒアリングを行い、実効性のある計画づくりに取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者はプロポーザルにより選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて予算規模は適切であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途は、業務完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

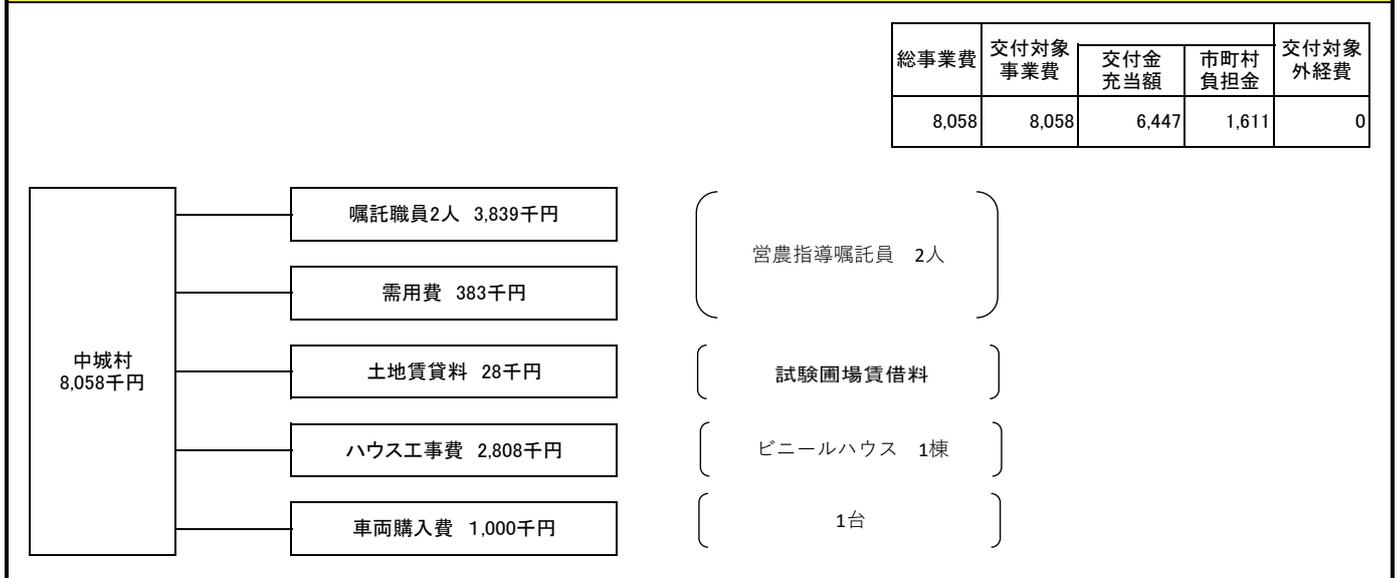
市町村名		中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-②		中城村農業振興環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
	担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成30~令和3年	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を活かした産業活性化事業 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	現在、中城村では作物の栽培試験を農家に委託し、露地圃場で実施しているが、農家の営農計画や気象状況によって思うような試験を行うことができていない。 そのため、試験栽培を行うために必要な人材、圃場及びハウス等の環境整備を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額						10,104
		(b) 予算現額						8,058
		(c) 増減額(b-a)						▲ 2,046
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)							8,058
	B. 執行済額							8,058
	うち交付金充当額							6,447
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)							100.0%
予算の状況の説明		当初24月予定していた営農指導員(2人×12月)の勤務月数が人材確保に時間を要したため予定月数に満たなかった。また、備品購入費の入札残や消耗品数量の減などにより減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	営農指導員の採用	目標	()	()	()	(2人)		
		実績				2人採用		
	栽培試験及び営農指導	目標	()	()	()	(2品目)		
		実績				2品目試験実施		
	試験用ハウス建築	目標	()	()	()	(1棟)		
実績					1棟整備			
達成状況説明	営農指導員を2人採用し、2品目(島ニンジンと島ダイコン)の試験栽培及び営農指導を行った。試験栽培により、これまで作付されたことのない地域でも島ニンジンと島ダイコンが栽培できることが確認できた。また、農家に対して営農の指導を行った結果、作物の栽培技術の向上に結び付いたと評価を得た。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(H31年度)	
	試験栽培 2品目	目標	()	()	()	(2品目)	()	
		実績				2品目試験実施		
	ハウスの建設完了	目標	()	()	()	(1棟)	()	
		実績				1棟整備		
	【H34成果目標】 試験栽培により得られた効果を活用し、営農指導を行った農家の割合 80%		目標	()	()	()	()	(80%)
	進捗状況説明		試験栽培を実施する農地の賃貸借契約を締結し、計画どおり2品目の試験を実施することができた。また、ハウスの整備により次年度以降、施設栽培の品目に関する試験を実施することが可能となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(試験栽培・営農指導) ・島にんじん作付面積の維持及び拡大のためにも播種及び間引き作業の軽減を図る必要がある。	(試験栽培・営農指導) ・島にんじんの栽培作業軽減に向け試験栽培を行い、基本となる作付方法を見出す。

今後の取り組み方針

(試験栽培、営農指導)
 ・試験栽培の結果の精度をより高めるため、引き続き、植付時期、畝の有無、被覆の種類及び有無に関する試験を行う。
 ・島にんじんの播種及び間引き作業の軽減化に向け、シーダーテープによる播種及び発芽試験を実施する。
 ・新たな品目の導入に向け、作付けから収穫までの試験栽培を実施し、普及の可能性を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○工事及び車両業者は指名競争入札で選定しており、妥当と考えている。 ○予定していた事業内容はすべて実施された他、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて予算規模は適切であったと考える。 ○費用・用途は、業務完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

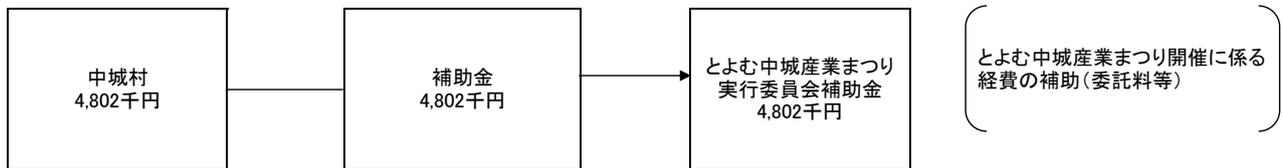
市町村名		中城村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	とよむ中城産業まつり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	中城村内で生産、製造又は提供される産業製品を村内外にPRL知名度の向上を目的として、「とよむ中城産業まつり」を開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	24年度	27年度	H30年度			
		5,000	5,000	7,000			
		5,000	5,000	7,000			
		0	0	0			
		-	-	-			
		5,000	5,000	7,000			
		5,000	4,640	4,802			
		4,000	3,711	3,841			
		0	0	0			
		100.0%	92.8%	68.6%			
予算の状況の説明	不用額は実績によるものであり、適切に事業を執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	年度	年度	年度	
		目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	イベントを実施するための実行委員会への補助金交付	目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	とよむ中城産業まつり実行委員会へ補助金交付を実施し、村内の各種産業をPRL産業の振興、地域活性を目的に、1月19日(土)、20日(日)の2日間「とよむ中城産業まつり」を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H24年度	H27年度	H30年度	目標値(年度)	
		とよむ中城産業まつり来場者数	()	(3,000人)	(5,000人)	(6,500人)	()
		実績		2,819人	5,894人	7,514人	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
	進捗状況説明	まつり開催期間中大雨が降りプログラムを停止する時間帯もあったが、HP等を活用しまつり開催の周知を行った結果、目表とする来場者数を大きく上回る7,514人の来場者数を数える結果となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>商工会、漁業組合、JAなど各種団体で実行委員会を構成し、多くの業種が参加できる体制で取り組んだ結果、出展小間数は前回を超え、内容も1次産業から3次産業までの業種が出展したが、出展事業所募集にあたり商工会会員を主に周知していたため、一部事業所に周知が行き届いていなかった。</p>	<p>ホームページや広報誌等での周知に限らず、商工会に未加入の事業所に対しては直接交渉する等、商工会をはじめ、漁業組合、JAなど各種団体と連携し、村内の事業所に向けて幅広くまつり開催の周知を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>商工会会員のみならず村内の事業所に向けて幅広くまつり開催の周知を行い、出展事業者の数及び内容を充実させることに努めるとともに、これら中城村内で生産、製造又は提供される産業製品を村内外にPRし知名度向上の促進に向けて、関係機関と連携した情報発信を強化し、来場者数を伸ばす取り組みを行う。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,802	4,802	3,841	961	0



資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先には産業振興に資する団体を選定しており、支出先として妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額が発生したものの、計画していた事業内容は実施され、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みても、予算規模は適正であったと考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定・精算時において支出等に関する書類により事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	